

1. 医学部教育

平成3年7月の法令による医学進学課程の廃止、及びそれに伴う大学設置基準の大綱化、週休2日制の導入、医師国家試験の内容及び時期の大幅な変革など、医学部を取り巻く内外条件の変化により、6年一貫教育を基本にした新カリキュラムが平成4年度入学生から施行された。新カリキュラムは医学を学ぶ、科学を学ぶ、人間を学ぶの3点を基本理念としたものである。新カリキュラムの大きな特徴は専門教育が1年生から行われ、従来の解剖学、生理学、生化学が2年生から行われること。更に3年生からは臓器別、疾患別講義および実習が、5年生から臨床実習が行われることである。

A 全学教育

平成9年9月に教養部が廃止され、全学教育の運営は委員会方式で行われることになった。全学教育には8科目（入門科目、個別科目、総合科目、一般情報処理科目、外国語科目、外国語関連科目、健康コンディショニング科目、留学生用科目）があり、個別科目は更に、5分野に分けられているが、12の分野・科目別専門委員会が設置され、夫々の委員会の責任部局が運営の責任を負うことになった。医学部は個別科目の人間科学分野において、教養部廃止後の責任部局として全学教育の運営を担うことになった。但し、教養部の廃止により、全学教育の企画、実施の核が消滅したことになり、旧教養部教官が他学部に分属されたことから総合大学としての教養教育の維持、存続に支障を来し始めている。

B 専門教育

本年度から、長崎大学医学部における臨床教育に協力する学外の医療機関等の優れた医師に対する称号の付与（平成9年度は臨床教授6名、臨床助教授1名）が行われ、臨床教育の指導体制の充実を図ることとした。3月に6年一貫新カリキュラム教育を受けた卒業生を初めて輩出した。平成9年度の6年次在学学生は86名で、すべて卒業し、新卒業者の医師国家試験合格率は94.1%であった。尚、新カリキュラムを見直し、平成11年度入学生から適用する更に新しいカリキュラム編成の作業を開始した。

C 長崎大学医学部外部評価報告書の発刊（3月）

教育、研究、学部運営等に関する長崎大学医学部の活動の評価を、12人の本学部以外の大学あるいは研究所に勤務しておられる先生方に依頼した。他大学の外部評価は外部評価委員が一同に会した委員会で行われているが、本学部では12名の外部評価委員に本学の自己評価委員会委員が個別にお目にかかり、インタビュー型式で外部評価委員の意見を聞き、その内容をまとめる方式をとった。外部評価委員から指摘された長崎大学医学部の問題点の多くは他大学にも共通しており、本学部の教職員が考え、改善に向けて行うことが、長崎大学医学部が世界の社会ならびに大

学に対して発信しうる最も重要な情報の一つとなることを意味するものと考えられる。

(平成9年度 医学部長 池田高良、教務委員長 谷山紘太郎、
学生委員長 矢野捷介)

(文責 谷山紘太郎)